



産婦人科における素朴な疑問と解説(3) 婦人科続編

以前、「産婦人科における素朴な疑問と解説(1) 婦人科編」(89 巻 10 号, 2022 年)と「産婦人科における素朴な疑問と解説(2) 産科編」(89 巻 11 号, 2022 年)という特集号を発刊した。今回の特集はその婦人科編の続編である。本企画は、素朴な疑問に答えられないと 5 歳の女の子に叱られるという某番組からヒントをいただいたものであるが、素朴な疑問には意外に本質的で興味深いものが多く、新しい発見への扉が開くこともある。実際に前回の婦人科編では、「ヒトに月経があるのはなぜ?」にはじまり、月経前症候群の機序、骨粗鬆症予防のための運動、更年期症候群の機序、腹腔内に逆流した子宮内膜の顛末、子宮内膜症/子宮腺筋症の発症機序、子宮内膜症で前置胎盤が多いこと、潜在性甲状腺機能低下症と不妊症や流産の関連、凍結融解胚移植で児が大きいこと、卵巣奇形腫の NMDAR 脳炎の機序、子宮頸がん検診での HPV 検査の必要性、子宮内膜症のがん化、卵巣明細胞がんで静脈血栓塞栓症が多いこと、子宮頸部の分葉状頸管腺過形成 (LEGH) などに関してエキスパートの先生方から玉稿を賜り、正直、私自身がおおいに勉強になって、企画の素晴らしさを改めて実感することができた。そして読者や周りからも好評を博し、婦人科続編を発刊させていただく運びとなった。今回、読者からの疑問に私が知りたい疑問も加えさせていただいたが、今後も読者からの素朴な疑問を募集したい。

前回の特集でも触れたが、疑問を抱くことは臨床研究の契機になる。仮に未解決であってもエキスパートの先生方から最新の知見を伺うことは知識の整理になり、アイデアの礎になる。最新の手法を用いた基礎研究は素晴らしいが、臨床研究も着眼点と意欲次第では実臨床に直結する輝かしい論文になると考える。

今回も私自身、本特集を読むのが楽しみだが、読者諸君もぜひ楽しんでいただきたい。本特集が少しでも産婦人科分野の発展に貢献することを期待してやまない。

(帝京大学ちば総合医療センター産婦人科 五十嵐敏雄)